

# 『アナログ的生活考』

西脇市病院事業管理者・病院長 岩井正秀

このところ、アナログレコードが静かな人気だという。CD できれいでも時代遅れの感がある中、レコードの良さが見直されているというのだ。50 年以上にわたってレコードを聴いている身としては、何をいまさらと言う気がしないでもないが、新譜がレコードでも発売されたりするのは、やはり喜ばしいことである。

中学生の時、初めて買った LP レコードはビートルズだった。宝物のように大切に、毎日飽きることなく聴いた。傷つけては大変だと、針の上げ下げには特に注意をした。当時は訳詞なども付いてなくて、ジャケットと同じサイズの歌詞カードを手に、理解できない英語の歌詞を追いながら繰り返し聴いた。レコードプレーヤーは、スピーカーが本体に組み込まれた安物のポータブルステレオだったが、全く不満はなかった。オーディオ機器の性能よりも、聴く側の感性の方が遥かに重要だと考えていたからである。

その後も小遣いを貯めては、少しずつレコードを買っていった。当時の中学生にとって LP レコードは高価なものであったので、欲しくなったら何度もレコード屋を訪れては、迷ったあげくに、やっと決心して買ったものだ。そうやって手に入れたレコードは、いつも真剣に聴いた。毎回ターンテーブルに載せるたびに、レコードはその身を針に削らせながら、美しい音を響かせているのだと感じていた。

その頃の LP は今もレコード棚の一隅を占めている。取り出すとジャケットは随分色褪せ、角が擦り切れている。歌詞カードも一部が破れ、こぼしたコーヒーの染みが目につく。久しぶりにレコード針を下ろすと、パチパチと小さな音を立てながら音楽が始まった。そして、これまでの長い年月と同じように、音楽は体中に染みわたって来るのである。

最近の世の中は、多くのことがデジタル化され、人々は颯爽とそれらを使いこなしている。音楽も、配信だ、サブスクだと進化して便利になっているようだ。ヘッドホンやイヤホンを使って街中で聴いている人も多い。しかし自分が IT に暗いのもあるが、あまり利用する気はしない。さらには、AI が、これがあなたの好きな音楽でしょうと勝手に判断して、配信することもあるという。余計なお世話である。そういったものよりも、自然の運ぶ音や、街の雑踏を聞く方がはるかに楽しく心が休まる。

音楽と同様に、以前とは大きく様変わりしたのが写真である。かつてはフィルムという限定されたものを使用し、プリントされた写真を見るまでに数日を要することが多かった。しかし今では、スマートフォンを使えば、何枚でも撮ることができ、すぐに画像も確認することが可能だ。そのようにして写真は際限なく蓄積され、時に応じて何時でも何処でも見ることができる。大変に便利だ。なるほど確かに、大変に便利ではあるが、しかし、私はかつての、撮り終えたフィルムをカメラから取り出し、店に預けて、写真が出来上がるまでの期待

と不安が混ざり合った時間を、懐かしく思う。また、重いアルバムを取り出して、ページをゆっくりとめくりながら昔の写真を見る時、そこには過去との静かな対話がいつも待っている。そしてそれは、画面を指でなぞって次々ときれいな写真を見ることでは、決して得ることができない種類のものなのである。

現代は音楽や写真のみならず、書籍や私達の使うカルテなどの紙媒体も、アナログ的ものは減少し、2進法のもたらした栄華が世界を席卷している。無論その恩恵は計り知れないものがあるだろう。しかし、長い間自分の物として所有し、共に年月を過ごした形あるものを愛する気持ちは、失わない世の中であってほしいと思う。かつて、アナログレコードというものを持つことによって、私は音楽と、より真摯に向き合うようになり、その結果として、音楽の魅力を深く知ることになったからである。

2022. 10. 1